

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590200069		
法人名	社会福祉法人 能代市社会福祉協議会		
事業所名	能代市緑町グループホーム		
所在地	秋田県能代市緑町7-17 (電話)0185-54-8511		
自己評価作成日	令和2年12月	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設しているデイサービスと養護老人ホームとの3施設では、近隣自治会と災害協定を締結し合同で防災訓練を行い非常時、緊急時には、地域住民の応援をいただく体制となっている。夜間は、夜勤者を2名配置し緊急時にも迅速に対応できるよう安心安全を第一にしております。本来であれば、養護老人ホーム入所者との観桜会やつつじ祭り、秋の小旅行などを合同で行ない交流を深めてきましたが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止とさせていただきます。また、クリスマス会への家族参加も中止とさせていただきます。入居者様の体調管理を十分に行いながら、レクリエーションの内容充実に関心を注ぎ、日々の生活に張り合いが持てるよう温かい雰囲気でご支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年2月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回調査で期待される内容として、日常の介護記録と介護計画の運動があげられていたが、記録様式の変更などで改善の図られていることが確認できた。  
夜勤者2名を専従とし、日中の人員配置を手厚くしている。3施設が渡り廊下でつながり、人的にも設備的にも連携できる体制が整っている。各種行事や通院、防災訓練など単独では難しい場面も強力な連携で効果的に行っている。コロナ禍となつてからは、ホーム内でおやつ作り、回想法(畑作り、子供の頃の遊び等)、タングラム、壁画づくり、各種ゲーム、紙芝居等様々な活動を取り入れ、職員が一丸となって縁の下の力持ちの役割を担い、笑い活気のあるホームを作っている。認知症だからと決めつけず、経口摂取や自力歩行など高齢になっても自立に向けた小さな歩みを続けるケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19,23)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:36,38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:27,49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:22,28,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、職員は行っている。入居者それぞれの自分らしい生活を支援出来るように、職員が取り組んでいる。	設立当初からの理念を目に触れる場所に掲示し、継承している。職員会議や申し送り、研修等で理念を共有し実践に繋げている。理念の他に毎年度当初、職員個々にモットーを掲げ、日々の業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、行事の中止をせざるを得なかった。	コロナ禍、例年のような地域交流はできていないが、ホーム内で実施できる行事を多く企画・実施している。毎年地域の中学校から寄贈品が届けられ、交流の場面があったが、今年は利用者との交流を控え、管理者が受け取ることになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会や地域の住民が相談にきたときには、お話を聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、文書による状況報告を2カ月に一度行った。	コロナ禍、書面で活動状況等を定期的に委員に報告している。今後は、ホームの取り組み状況等について報告するだけでなく、各委員から意見等を返送してもらうことで、サービスの向上に活かしていくことを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響により、訪問は難しくかったので電話で情報交換を行ってきた。	各種申請書提出の代行や電話で情報交換を行っている。コロナ禍にあって、実地指導は市に書類を持参して行ってもらった。また、家族の面会や会議の開催については、都度、市の担当者に相談しながら対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に基づき、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。入居者に対しての接遇・マナーの研修など行っている。	実施事例はない。身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、会議内容を職員会議に反映させ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年間の研修計画の中にも盛り込まれ、直近では1月に実施されていることが研修報告記録から確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会や職員会議等で意見の交換や確認など行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	遠方にいる入居者のご家族からの相談などでは権利擁護などの内容や様々なサービスがあることを説明して支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を使用して、十分な説明をしている。本人、家族からの疑問や質問に対しては、分かりやすくかつ柔らかい言葉を使い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を見えやすい場所に設置している。会話のなかから、ご本人、ご家族の思いや考えなどを聞き取っている。	毎月、家族が利用料の支払いで来訪された際、意見や要望を聞いている。また、年1回行っている家族アンケートの集計結果を職員が共有し、運営に反映させるようにしている。毎月、利用者状況報告書(本人のスナップ写真も掲載)を家族に送付。家族から感謝の言葉等が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社会福祉協議会全体で年2回のアンケートを実施して、勤務状況やストレスについて聞き取れるようにしている。意見や不満等についての訴えがある場合には管理者等が話を聞いている。	法人全体で年2回、職務内容や健康等に関する職員アンケートを実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。異動希望調書も毎年提出している。日常的には申し送りノートや職員会議を活用し、職員意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ、資格取得により給与に反映するようにしている。職員個々に役割をつけることにより、やりがいを感じられるようにしている。話しやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や感染症、マナー・接遇の内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境と雰囲気作りに努めている。ご本人の言葉をしっかり受け止めて対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族とどのような形で支援していくのかについて話をしている。個々の入居者それぞれが安心して生活出来るように取り組んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士と一緒に作業出来ることを見つけて行ったり、職員と一緒に作業するなどそれぞれが出来ることを見つけて行うようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望や考え方など具体的に十分に話を聞いて、ご本人を支えていく関係作りに努めている。毎月、ご家族に状況を報告している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、友人などの付き合いが途切れないように年賀状を送っている。電話での会話も自由に行っているご家族には毎月、利用者さんの状況を報告している。2カ月に1度、新聞の発行をしている。	本人のスナップ写真に賀詞(ほぼ全員自筆)を添えた年賀状を送ったり、隔月に発行しているホーム便りでは日常の活動状況を報告する等、馴染みの関係を継続できるよう支援している。コロナ禍、面会制限は継続しているが、今後、リモート面会を検討している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守ることで、入居者同士の交流が出来る。職員が声がけすることで、和やかに入居者同士の関係性が保たれている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	わからないときにはいつでも相談して欲しいとご家族にはいつも話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや要望などは真摯に受け止めている。安心して話せるような環境作り心掛けています。	おやつ作りでは利用者の希望を取り入れたメニューにしたり、孤立しがちな利用者の席を意図的に変更したことで会話の輪に入れるようになる等、利用者が楽しく安心して話せるような環境づくりを常に心がけている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族からの情報で過去の生活歴や人間関係などを把握して考慮しながらご本人と向き合っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の性格や健康状態を見ながら、一人ひとりに合わせた生活を過ごしてもらっている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から意向を聞いている。職員からも現状の課題を話し合い、職員会議で検討している。	職員会議でケースカンファレンスを行い課題を抽出、まとめられた記録を基に計画作成担当者が介護計画を作成している。生活くらしノートの介護記録や随時聴取している家族等の意見も反映されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースファイル、申し送り等で記録して情報を伝えている。記録を基に介護計画に繋げている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前はボランティア訪問も多く、幼稚園児からご年配の方まで幅広くて頂き、一緒に参加して交流していた。今年は職員と一緒に楽器演奏や大型の壁画作成等の発表に力を入れ気分転換を図った。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家庭と相談のもと、かかりつけ医への受診、または往診、訪問歯科など個々に合わせて支援している。病院、薬局等の連携も出来ている。	医療機関への受診はホームでの支援を基本としている。車いすの方は隣接のデイサービスの車輜と運転手を活用できる体制になっている。かかりつけ医や薬局との関係は良好。処方薬はホームに届けてくれる他、薬の内容や医師の所見の再確認にも快く応じてくれる関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師と連携が取れているため、相談やアドバイスをもらっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人・ご家族の考えを聞き話し合いながら、医師や看護師と相談している。退院時には連携室とも相談しすぐに迎え入れられるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な支援が出来るように、ご家族と話し合いの場を持つようになっている。職員も情報を共有している。	重度化・終末期の対応指針は特に設けていないが、ホームでの医療行為が必要になるまでは支援する方針を掲げている。看取りの実施事例はないが、末期がんの方のケアを家族との連携を密にしながら、入院直前まで行ったケースがある。入院後も毎日居室環境を整える対応を続けたことで、いつでもホームに戻れる安心感を利用者にも感じてもらうことができたとのこと。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員がAED装置、人工呼吸などの救命講習を受けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルスの影響で消防署・自治会からの参加は無しにした。今年に関しては3施設で、防災訓練と夜間招集訓練をホーム内で実施した。自治会とは災害協力協定を結んでいる。	例年、自治会も参加する3施設合同の避難訓練を実施していたが、コロナ禍のため、今年度は自治会からの参加は無しで行った。自治会とは災害協力協定を締結しており、有事の際は強力な応援体制が期待される。食糧等の備蓄品は1週間分ほどある。停電時、利用者が個々に所持している置き型懐中電灯を活用。利用者の協力体制を実感したとのこと。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の考え方や生活リズムを理解しながら他入居者と交流できるように配慮している。食事、入浴、排泄等に関してゆっくりと時間を使い、本人に合わせながら支援出来るようにしている。	利用者個々を尊重したケアを日常的に心掛けている。特に排泄場面では人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしていることが7月の研修記録でも確認できた。同性介助については、要望があれば対応する方針であるとのこと。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の考えや思いを言葉に出来る和やかな環境を作っている。入居者それぞれの考えや思いについて話されているときは、ゆっくりと最後まで聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の考えや行動を大事にして、見守っている。折りためた折鶴でタペストリーの制作や壁画制作に利用させてもらっている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理容を利用している。洋服は本人のその日の気分に合わせて一緒に選んでいる。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理、片付けなど入居者個々に出るところを手伝ってもらったりしている。おやつなど手作りする時には他入居者と交流しながら行っている。	法人の栄養士が献立を作り、カロリーや栄養バランスが取れた食事提供をしている。調理されたものがホームに運ばれ、利用者と一緒に盛り付けをしている。食後の片付けもできる方には手伝ってもらっている。経口摂取が難しいと思われた方に、ゆっくり時間を掛けたり場面を変えたりするなどの対応をした食欲が増したこともあった。また、車椅子は移動の手段という認識を強く持ち、食事の際は車椅子ではなく食卓の椅子に移乗して食べてもらう等、ひとり一人の自立を意識したケアが実践されている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士から指導をもらっている。バランスの取れた食事提供に努めている。水分については毎日が水分強化日として取り組んでいる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、必要な方には支援を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄剤の使用を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや表情等を確認してトイレでの排泄が出来るように支援している。日中はなるべくリハビリパンツの使用を減らしている。	個々の排泄パターンや表情、仕草等を把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。おむつ使用は1名、他はトイレ誘導し、リハビリパンツの使用を減らせるよう支援している。居室にポータブルトイレの設置はない。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を摂り、こまめな水分補給をしている。体調に合わせてヨーグルトを食べたり配慮している。体操などの軽い運動を毎日している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに4、5人が入浴している。入浴のない日は清拭、足浴している。本人の希望で入浴したくないときは調整して別の日にしている。	一般浴槽はデイサービスと共有。2日に1回、午後の入浴を基本としている。特浴利用は2名でデイサービスの浴室を利用。入浴拒否する方はおらず、会話しながら楽しんで入っている。入浴日以外は足浴を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活のリズムに出来るだけ合わせてゆっくりと休息してもらい、過ごしてもらっている。昼寝ができない利用者や寂しがる利用者には、ホールにソファを準備したり一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんだりして過ごしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り帳を活用して、個々の薬について申し送りをして理解出来るようにしている。薬の変更後の状態など記録している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割をもち、日課で行ってもらえるように支援している。行事やレクリエーションなどへの参加を促して気分転換や楽しめる環境を増やすように努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、十分な外出支援ができずホームの敷地内にある畑仕事や散歩・庭を利用してお茶会等々で気分転換を図っている。	コロナ禍、例年のような外出ができない状況にあるが、個別に近距離の外散歩を支援したり、デイサービスが休みの日に広いデイルームで活動したりしている。前庭でのティータイム、野菜(茄子、トマト、ピーマン、ししとう、さつまいも、ジャガイモ、枝豆、大根)の収穫等々毎月豊富な活動メニューを企画・実施している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお小遣いとして預かっている入居者には必要な物品や衣類等、要望を聞いたり選んでもらったりして購入している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望やご家族から電話があったときには使用出来るようにしている。毎年、年賀状を入居者が書いて送っている。新型コロナウイルスの影響で外出・外泊を控えている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、頂いた手作りのプレゼントなどを飾っている。トイレ内も掃除をこまめに行い、空気清浄機を置いて、清潔を保っている。	一般浴槽がデイサービスと共有で、利用者・職員の往来が日常的にあり、程よい生活音が感じられる。利用者と職員が一緒に作った作品が事業所内に飾られ、活発な取り組み状況がうかがわれた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファなどを置いて好きな場所でくつろげるようにしている。和室なども利用出来るようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室にはご家族の写真やぬいぐるみ、花や造花などを置いて、過ごしやすい環境に努めている。	ベッド、床頭台、テーブル・椅子が備品として設置されている他、各居室に洗面台があり、歯磨きや整容がゆっくりできるようになっている。家族の写真やお気に入りの縫いぐるみ、飾り物などがある。また、雑巾がけを職員と一緒にし、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前をつけて、ご本人が確認できるようにしている。トイレもわかるように表示している。歩行時に障害物など無いうように安全に努めている。		